

2月講話会 報告

一般社団法人すてきな大分を伝える会

皆様お元気ですか。2月の講話会は、一般社団法人大分学研究会の代表理事 檜本譲司先生をお招き致しました。『大分学のすすめ』と題して、大分県の魅力をいろいろな角度からお話してくださいました。お陰様で、“すてきな大分”をたくさん発見することができました。今回は、印象深く残りましたことを7点にわけてご報告いたします。大分県は、魅力が一杯ですね。

① 先ず、大分県は、温泉の数(5,093)と湧出量(298千L)がダントツで全国一です。



② 山岳も九州では、上位7座まで大分県にあります。最高峰は、くじゅう連山中岳で、標高1791mあるそうです。地形も変化に富み、リアス式の日豊海岸はじめ別府湾、周防灘、国東半島、佐賀関等美しい景観が多く、動植物も多種で九州の自然博物館と言われるほどとのことです。

③ 大陸・朝鮮半島と関西、畿内地方との海上交通の結節点の位置づけにあり、古来より栄え、重要な役割を果たしてきました。

④ 8藩（府内藩、臼杵藩、佐伯藩、岡藩、中津藩、杵築藩、森藩）7領（幕府領、肥後藩、島原藩、延岡藩、時枝領、立石領、宇佐神宮領）と計15にも及ぶ小藩・領域に分割統治され発展の妨げになったかにありますが、反面これにより地域特有の文化や独自性が生まれ、大分の魅力になりました。

⑤ 人材輩出の大分（豊後の三賢人、4人の日銀総裁、大分から全国レベルで活躍した人材多い）

⑥ 壬申の乱（672年）の決定的な場面で、責任を果たした大分君（おほきだのきみ）

これは1350年も昔の皇位継承をめぐる争乱です。この時大分出身の人物（大分恵尺と大分稚臣）が重要な役割を果たしました。大海人皇子（後の天武天皇）軍にあった大分稚臣（おほきだのわかみ）は、瀬田橋（現大津市）で敵軍と膠着状態にあった時、鎧を二重にまとい雨のように飛んでくる弓矢の中を、先頭で切り込みこの難関を突破し、大海人皇子軍の勝利に繋がったのです。数年後、大分稚臣が死去する時、天武天皇（前大海人皇子）は、その死を大いに悲しみ「私を背きて公に向きて、身命を惜しまず」とのお言葉を下賜され、その功績を称えたと言われます。（ユーチューブ「壬申の乱 古代最大の内乱」が参考になります。）



⑦ 第二国土軸と東九州新幹線ルートは、大分県が大きく浮上するかどうかに関わる重大な課題です。関心をもっと向けていくべきでしょう。（青井勝久記）

推薦図書 「親子で読む大分偉人伝」（辻野功著 大分学研究会）

「大分学事始（第1集、第2集）」（大分学研究会編）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ 3月・4月 講話会お知らせ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

3月23日（土）12時より開会 『豊後大野市に伝わる真名野長者伝説とまちおこし』

於：アートホール大分 講師：真名野長者研究会 会長 佐藤芳延 氏

4月27日（土）14時より開会 『キリシタン大名 大友宗麟の「真実」』

於：ホルトホール大分 講師：大分県先哲史料館 主幹研究員 松原勝也 氏

お問い合わせ先 一般社団法人すてきな大分を伝える会 青井勝久 TEL 080-3865-7104